

中田かわら版 10月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■interview

踊場地域ケアプラザ創立 20 周年

所長 生田純也さんに聞く



今年 6 月 30 日、創立 20 年を迎え盛大な祝賀会が行われました。改めて、おめでとうございます

生田 ありがとうございます。これも地域の皆さまの温かい協力があったからで、感謝しています。利用者さんから期待に添えるよう努力してまいります。

ケアプラザの誕生について

生田 平成 11 年（1999 年）、市営地下鉄が開通（戸塚～湘南台）。その踊場駅の上に今の建物ができた。翌年 4 月、介護保険制度ができ横浜市がケアプラザを作るにあたり入札というか、私たちの匡済会が手を挙げた（希望した）ということです。匡済会は社会福祉事業 100 年の歴史を持った団体です。

20 年前と今と、どう違いますか

生田 随分変わっています。発足した時は机が 5 つ、メンバーも 20 人くらい。現在は 2 階のデイサービス部を入れると 60 人になります。内容も多様化して地域との交流、支援活動など活動拠点として重要性は格段に変わっています。登録されているサークルも 100 くらいでしょうか。

踊場ケアプラザの設置に井上静子さんの力が大きかったそうですね

生田 それはあったと思います。そのくらいの力を持った人ですから。「二十日会」をここに持つてくるために厨房も広く立派になっています。

泉区にはケアプラザはいくつくらい

生田 6 か所あり、上飯田が 1 番最初で踊場は 3 番目にできている。

生田さんは中田の歴史に大変詳しい

生田 地域コーディネーターをしていると、多くの人と会う機会がある。その時、地域の慣習、土地の歴史を知らないと話になりません。小島貞雄さんの本を読んだり、いろいろ調べたり。特にここは古い石像物なども多く興味があります。

中田について日ごろ思っていることは

生田 古くからの地主さんや神社・お寺。記念碑なども多くある町。若い人たちが転入してくるのにも寛容で住みやすい町なのでしょう。例えば泉区で中田の子供の出生率が一番高い。子育てサロンも多く、若いお母さんたちから喜ばれている。

生田さんと言えば「中田かわら版」の育ての親と言っている人。平成 19 年 6 月創刊、

今年で 12 年になります。146 号までできました

生田 6 年くらいやって今の葛西さん引き継いだ。中田の保健衛生関係の会報からスタート。当時「おどりば新聞」を皆さんにどう読んでいただくか模索していた。そこに『かわら版』ができたので、新聞の裏が空いていたのでタイアップしてできた。中田に住んだからにはその土地のことをよく知りたい。それを満たしてくれるのが『かわら版』です。

生田さんのお住まいは下和泉。通勤はどうしていますか

生田 雨の日は車ですが、それ以外は歩いて来ます。30 分ぐらいですが、歩くといろいろと日々発見できます。健康にもいいし。

ところで、生田さんの趣味は。休日は何をされていますか

生田 畑仕事やウォーキング、好きな歴史の本を読んだり、調べたり。家族と一緒に掛けるのが好きです。

いい話など、いろいろありがとうございました

（構成・文責 宮田貞夫）

～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

11月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケ
アプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。
TEL 801-2114 FAX 801-2923

【中田連合文化祭】

日時：11月9日(土) 17:00~18:00、11月10日(日) 9:30~14:45

場所：中田小学校体育館・校庭

内容：体育館にて作品展示。模擬店やゲーム、マーチング演奏など。



【お詫びと訂正】9月号において、葛野コミュニティハウス文化祭の日程を間違っ
て掲載しておりました。正しくは、10/5(土)・6(日)です。ご迷惑をおかけ致
しました。

■中田の歴史記念物<7>

双体道祖神 戸塚苑

広く庶民に間で「塚の神」として信仰されてきた。サエノカミ（賽の神）、ドウロクジン、フナドノカミなど地域によってさまざまな呼称がみられる。一般的には石に「道祖神」「道陸神」という神名を刻んだものや神像そのものを彫ったものなど。村や集落に通じる道の入口や辻に建てられ外部から侵入してくる疫病や災害をもたらす邪霊、悪神を防ぐものとされていた。一方で旅人の守護神として役割もあった。

中田にある双体道祖神塔は、長野県や群馬県に多く見られる男女神の睦みあう型や祝言、握手像ではなく合掌か拱手のいずれかだが、どちらかというといふ教色の強い双体像で相模型と言われもので、その中で



頭の丸い僧形像が和泉町三家と、ここ中田に一基づつある。中田の双体像の横に葛野村氏子中とあり、文化4年12月、吉祥日の期日が刻まれている。西暦では1807年、約200年前である。塔身部、68×28×14cm。双体像の身長だけを見ると36cmある。この双体道祖神塔については毎年1月14日、双体像を中心に地元で「サイト焼き」が行われているのは「かわら版」(141号)で紹介している。

現在泉区に見られる道祖神塔は、近世中期建立されたもので、村名や小名が刻まれているのは庶民の手によって作られたことが分かる。泉区に現存する

塔は32基ある。例えばここに掲げた中田の双体像、2枚の写真は左が50年くらい前のもので凹凸が比較的是っきりしている。右の写真は顔ものっぺりしており風化が見られる。当然、塔の背景も現在とだいぶ違っているのが分かる。

ところで村落を悪霊から守るのは石碑の道祖神だけではなく、地域によっては藁で作った大きな人形やわらじを巨人に思わせ追い払うという風習も各地で多く見られる。一つ目小僧の伝説も泉区以外にも県下で広く伝わる話である。一つ目小僧が村々を回り村人の悪行を記した帳面を一時的に預けた道祖神に、小正月の火祭りで焼いて難から逃れるという「オコト八日」の風習も同じものかもしれない。

この「道祖神」という表記については祖神、路神、道神などと呼ばれた中国で信仰された旅の安全を祈願した神に由来する説のあることも記しておく。

(宮田貞夫)

<参考資料> 「郷土いずみ」(泉区歴史の会)、「日本の神様図鑑」(青幻舎)

「道祖神の源流」(川崎市市民ミュージアム)



戸塚・南谷戸の大わらじ
(長さ350cm 幅150cm)

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！